

アナザースカイその2

2020.10.9

皆さんと一緒に考えたいことがある。皆さんがこれから出会う方の中には、もういっぱいいっぱいつぶれそうになっている方がいるかもしれない。そういった方は、大抵の場合、まじめなのであるが、プライオリティ、優先度、優先順位をつけることができないことが多いと思う。そういった方に、ニューヨークの話はしなくてもいいのだが、気分転換の大切さを教えてほしいのである。

私の同級生は、仕事ができ、まわりからも期待されている教師だと思ふ。そして、彼女はまじめである。まじめだからこそ、つぶれる寸前かもしれない。それでもやっつけていけるのは、アナザースカイ、ニューヨークのおかげかもしれない。

まじめすぎると、つぶれてしまう方もいる。つぶれる前に救ってほしいのである。ご自分の経験がなくても、人から聞いた話、書籍から得た話でもいいので、教えてあげることができればと思う。そして、しばらくしてから、「アナザースカイは見つかりましたか？」と気軽に声をかけられるような人になりたいものである。

私の場合は、いくつもの仕事が重なり、時間にも追われてくると、いつも心の中で「ひとつひとつ」と念じている。ひとつひとつこなししていけば、そのうちに終わるというわけである。特に教頭時代に「ひとつひとつ」とよく心の中で言っていた。思い返してみると、「ひとつひとつ」こなししていく順番があるわけで、プライオリティ、優先度、優先順位があったということである。仕事の優先順位をつけ、スケジュール帳に書き込んだ時点で、8割がた終わっているようにも思う。

また、4校目のF中学校の教諭時代には、若い頃の「時間に追われる」から「時間を見つける」ことをマスターし、「時間を創り出す」ことを覚えたように思う。だから、いろいろなことがやれたのであろう。そうでなければ、計算が合わない。ただし、あのままのペースで教諭を続けていたら、やはりニューヨーク、私の場合はイタリアに毎年行かないとつぶれていたかもしれない。それまでも、「時間を見つける」ことはできていたと思う。そこから「時間を創り出す」レベルに到達できたのは、F中学校時代である。

私は自分で「忙しい」とか「大変だ」とは言わないタイプだと思っている。忙しいのは当たり前のことであり、大変なのはやりがいがあるということである。忙しい、大変だ、つらい、苦しい、幸せだ、などというものは、まわりの人が決めることではなく、本人が決めることである。したがって、まわりからすると、忙しくて大変そうに見えていても、本人はそうは思っていないで、かえって充実していると思っているかもしれないのである。逆に、本人は「ああ忙しい、大変」と口にしていても、まわりからは、さっぱりそうは見えないこともある。

私は、落ち込んだりしたときに、どこかに出かけるタイプではない。それでも、国内でのアナザースカイというと、実家から見える吾妻山であったり、高湯温泉の白く濁ったお湯だったりする。ニューヨークやイタリアは、行きたくてもなかなか行けない。そこがいい。行きたいのに行けない。だから憧れるのである。いつかは行きたいという気持ちが励みになり、パワーとなる。

皆さんのアナザースカイはどちらであろうか。「〇〇〇〇、ここが私のアナザースカイ」